

一般質問

9月定例会の一般質問は9月16日に行われ、4人の議員が登壇し、村政全般にわたり質問がなされました。

質問項目は下記のとおりとなります。項目別の内容につきましては村ホームページの一般質問通告事項一覧をご覧ください。次ページより、やり取りの一部を抜粋して紹介いたします。詳細な内容は会議録の公表をお待ちください。

はやし しょうこ 議員
林 昌子

所属委員会：厚生文教常任委員会

- 「いばらきアマビエちゃん」
利用促進について
- 次期介護保険事業計画について
- 改正バリアフリー法について

やまざき さちこ 議員
山崎 幸子

所属委員会：総務経済常任委員会

- 「お悔みデスク」について
- 「美浦村地区計画」について

いいだ ようじ 議員
飯田 洋司

所属委員会：厚生文教常任委員会

- ICT教育について
- マイナンバーカードについて

まつむら ひろし 議員
松村 広志

所属委員会：厚生文教常任委員会

- フューチャーデザイン（FD）
と持続可能な開発目標（SDGs）
s）について
- 児童の健康管理について



一般質問

「いばらぎアロマビュウちゃん」利用促進について



はやし しょうこ
林 昌子 議員

計画策定の現状と展望は。

答弁 (保健福祉部長) 国が示す基本指針に基づき、本村の実情に応じた計画の素案を策定し、パブリックコメントを実施後、第8期の計画を策定する。

答弁 (村長) 高齢者の皆さんが安心して老いを迎えられるよう、地域共生社会の実現を図る事業計画を示したい。

「改正バリアフリー法について

質問 改正バリアフリー法が成立し、5月20日に公布された。本村の構想は展望は。

答弁 (総務部長) 現在でも、小学校において「高齢者疑似体験」「車イス体験」を実施し、総合的な学習の時間には「心のバリアフリーノート」を活用しているが、マスタープランや基本構想を策定する意義や効果を研究していく。

「お悔みデスク」について



やまざき さちこ
山崎 幸子 議員

質問 家族が亡くなった後の手続きは、申請書も相当数あり、色々な窓口を回らなくてはならず、住民からは本当に大変だったという声が多い。

小美玉市や取手市では、手続きが一カ所で済ませられる「お悔みデスク」というものを開設しているが、本村でも開設を考えたかどうか。

答弁 (村長) 美浦は庁舎も大きくなく、一階のフロアでほぼ済むだろうから一カ所で行つということとは必要ないと思つ。

答弁 (総務部長) 亡くなった方がどのような手続きが必要か、様式等でチェックする

ということとは考えられると思う。それを、どのように通知するか、今後検討し、来た方がなるべく一回で終わるように対応していきたい。



「美浦村地区計画」について

質問 地域交流地区B地区の進捗状況は。

答弁 (経済建設部長) 令和元年8月迄に2社の出店希望があり、令和2年1月に株式会社サンヨーホームと「事業用地賃貸借契約」を締結。当初は令和2年度又は3年度初めに店舗オープン予定だったが、新型コロナウイルス等の事情により遅れている。

次期介護保険

事業計画について

質問 事業者への登録支援策や、住民への利用促進はどの様に図っていくのか。

答弁 (経済建設部長) 登録事業者には、茨城県地域企業活力向上応援事業補助金(2分の1県補助)を活用し、一律10万円の補助を行う。また、広報みほ、美浦村HP、Mission、庁舎1階のサインエージにて周知し利用促進を図っていく。

質問 住民の抱える課題が複雑化し、包括的支援体制の整備が必要。次期介護保険事業

ICT教育について



い だ よ う じ
飯 田 洋 司
議 員

質問 タブレットパソコンの村内小中学校全児童生徒への配布スケジュールは。

答弁 (教育次長) GIGAスクール構想により令和5年度までに整備予定だったが、国の予算措置が前倒しされたため、来年3月までに各校へ配備する。

質問 オンライン学習環境が整備されることによるICTの活用について。

答弁 (教育次長) ご家庭に通信環境のない児童生徒等へ機器を貸与することにより、概ねの児童生徒がオンライン学習を可能とする。教育委員会としては、新型コロナウイルス

ルス感染症拡大により、学校が再び臨時休業となった場合の緊急的な学びの保障とオンライン学習を位置づけ、その際には、質の高い授業動画の情報を提供していく。

マイナンバーカードについて

質問 登録者増加の対応は。また、口座紐付きによるメリット、デメリットは。

答弁 (総務部長) マイナンバーカード取得促進のため、希望者に申請支援、休日交付を行っている。

□座連携は迅速正確な処理が可能になる一方、すべての方が□座をお持ちとは限らず、オンライン申請だけにすることはできない。今後の法整備の状況を注視し、住民の利便性向上のための施策を考えていく。

フューチャーデザインとSDGsについて



ま つ む ら ひ ろ し
松 村 広 志
議 員

質問 「子どもたちのためなら、自分が我慢してでもしてあげたい」、こころした気持ち

を親子間だけでなくすべての将来世代の視点で行う。そして、地域の課題や問題を見つめ創造する取り組みをフューチャーデザインという。これは、社会の様々な問題に対峙するSDGs (持続可能な開発目標)の活動とも共鳴する。総合計画にもリンクさせ活用を促したい。本村の意向を問う。

答弁 (総務部長) 今後の政策立案の過程でどのように取り入れられるか研究したい。
質問 新たな生活様式として

都市部からの「田園回帰」の動きがある。本村での取り組みを問う。

答弁 (村長) 霞ヶ浦付近の活用をはじめ、本村の魅力と可能性をどう発信するか考えていきたい。

質問 持続可能な社会の担い手を育む教育 (ESD) が世界中で始まっている。本村の意向を問う。



答弁 (教育長) ESDの目標を見据え、学校教育指導方針や総合計画のもと、これからの教育活動の充実を図って参りたい。

(※他に、児童のマスクの衛生管理、睡眠障害、感染拡大防止アプリの活用について質問を行った。)